地域における職業訓練の質の検証・改善業務（令和６年度）

検証対象とする訓練分野・ヒアリング対象選定

公的職業訓練実施状況において、就職率が高いものの、訓練への応募者が少ない分野として介護・医療・福祉分野があり、この問題を解消するために訓練内容、就職支援について検証することとした。

ヒアリング実施状況

○　ヒアリング実施時期　令和６年７月～１０月

○　ヒアリング実施者　①　福岡県
②　独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構福岡支部
③　福岡労働局
※　職業訓練実施機関へは①②が、職業訓練修了生採用企業及び職業訓練修了生へは③がヒアリングを実施した。

○　ヒアリング先

職業訓練実施機関	３機関（公共職業訓練１機関、求職者支援訓練２機関）
職業訓練修了生採用企業	３社
職業訓練修了生	３名

ヒアリング結果について

【訓練修了生採用企業からの意見】

○訓練修了生は福祉業務に対する理解が深いため、即戦力となること及び定着について期待している。

○講義や企業実習を通じて現場の声や具体的な事例を学ぶことで、必要な知識・技能を身につけており、実務に生かされている。

【訓練修了生からの意見】

○職業訓練で学んだ多くのことが実務に役立っているものの、講義内容についてもっと深く学びたかった。

○より実践に近い実技演習を受けることができれば良かった。

【訓練修了生採用企業及び訓練修了生からの共通意見】

○介護業務では利用者への声掛けが重要な業務の一つであり、職業訓練でコミュニケーション能力や声掛けの技術を身につけていることが大事である。

ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について

【今後の対応】

○修了生採用企業からの、訓練受講による優位性を示す意見については、今後、ハローワークの職員間で情報共有し職業相談（受講あっせん）の場で活用する。

○修了生及び修了生採用企業からの意見については、福岡労働局HPに公開することで訓練実施機関等に情報共有する。

また、訓練実施機関に対して情報提供を行うことに加え、各機関（国・県・機構）が定期的に実施している公的職業訓練実施機関への訪問時には、直接訓練実施機関に対してヒアリング内容についての説明等を行い、現行の訓練カリキュラムの内容の検証を促す。

ヒアリング実施結果概要①　（職業訓練実施機関）

【質問】	【職業訓練実施機関からのご意見】
訓練カリキュラムについて工夫している点はどのようなものか。	● 「障がいの理解」について、訓練修了生からもっと深く学びたかったとの要望があり、また、講師からも時間を掛けて学んだ方が良いとの意見もあり、講義時間を６時間から９時間に変更した。 ● 実技演習を受けたことにより、就職後の業務に活用できたとの多くの声を訓練修了生からもらっており、就職後に特に必要となる実技演習に力を入れている。 ● 受講生が就職を検討する上で、自分が働きたい施設（特別養護老人ホーム、デイサービス等）を具体的に検討できるように企業実習を重要視しており、数十箇所の企業実習先を確保して企業実習を実施している。
就職支援について工夫している点はどのようなものか。	● 企業実習により、利用者や現場の介護職員と触れ合う機会を設けることで、就職への現実味を感じ、就職意欲が高まったとの多くの声を訓練修了生からもらった。 ● 職業紹介事業も実施しており、多くの介護施設の特徴や社風・就業条件などを把握しているため、受講生へ情報提供することで就職支援に生かしている。 ● 修了生の就職に関する成功事例を伝えて意識向上につなげており、訓練修了の２か月前から受講者全員に就職活動を勧めていき、集団心理により、良い意味で内定を得ていないことへの「焦り」を生む環境を作っている。 ● 個別説明会なども利用し、なるべく事業所との接点を持てるようにしている。
その他、運営する上で工夫している点はどのようなものか。	● 訓練内容の理解度・習熟度には個人差があり、低調な受講生のうち個人の能力が主な要因となっていると推測される場合は、その状態に理解を示した上で可能な限りのフォローアップを心掛けている。 ● 講義や演習をどのように進めていくか、事前に説明して理解させた上で実施している。講義後の振り返りシートにより、理解度や満足度を把握して次回開講の職業訓練に活かしている。

ヒアリング実施結果概要②　（訓練修了生採用企業）

【質問】	【訓練修了生採用企業からのご意見】
訓練により得られたスキルや知識のうち、採用後に特に役立っているのはどのようなものか。	● 個人的なコミュニケーション能力の差はあるが、職業訓練によるコミュニーケーション技術向上のカリキュラムは職員・チーム内での声掛けや、サポートにも役立っている。 ● 実際の現場では、利用者それぞれに合わせた対応が求められ、職業訓練で技能やコミュニケーションについてしっかり学んでいることが実践の場で生かされている。 ● 採用した訓練修了生が学んだ訓練校は指導が厳しく、必要な知識・技能をしっかり学べていることを事業所としても認識しており、採用に至っている。 ● 複数の企業実習を経験して自分が働きたい施設等を絞り込めており、就職後の即戦力につながっている。
訓練において、特に習得しておくことが望ましいスキルは知識はどのようなものか。	● 自ら動く力、指示待ちで受身にならない、不明点は質問する、など一歩踏み出す力を習得することが望ましい。 ● テキストのみならず、様々な事例を学ぶことや、実際の現場の声を知る事が利用者とのコミュニケーションを深める意味でも大事である。 ● 一人一人の行動が異なる利用者に対する、声掛け、接し方、言葉の選択等、コミュニケーションをどのように構築するかを学ぶことが重要である。
訓練修了者の採用に際して未受講者（未経験者）と比較して期待している点はどのようなものか。	● 職業訓練を通じて福祉業務を理解しており、就職後すぐに離職しない。 ● ６か月間の訓練期間は大事で、必要な知識・技能を習得した訓練修了生の採用はありがたく、専門用語を理解しているので説明の必要がなく、入社時の業務指導もやりやすい。 ● 職業訓練の受講がない方も採用しているが、特に訓練修了生には介護の有資格者としての自覚を持って働いて欲しく、常に学び、向上心を持つことを期待している。

ヒアリング実施結果概要③　（訓練修了生）

【質問】	【訓練修了生からのご意見】
訓練内容の中で、特に就職後に役立ったのはどのようなものか。	● 全て役立っており、使用したテキストは今でも確認のために見直すことがある。 ● 利用者を人生の先輩として尊厳を持って接することなど、声掛けや対応におけるコミュニケーションについて学べたこと。 ● 講師が介護の現場を経験された方で、具体的な事例を聞くことができ、現在の業務に役立っている。 ● 「認知症理解」、「障がいの理解」のカリキュラムで、声掛けの方法について学べたことが実務に大変役立っている。 ● 厳しい指導による実技の訓練が実務に役立っている。
訓練内容において、就職後にあまり活用されなかったのはどのようなものか。	● 全てのカリキュラムが役に立っている。 ● 声掛けの仕方や言葉使いについて、看護師、介護士等、各講師の経歴により指導内容が異なる場合があり、場面によっては学んだとおりには上手く伝わらず、利用者との距離を感じてしまうことがあった。
就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキルや知識はどのようなものか。	● 介護業務における突発的な事象への対応方法が学びたかった。 ● 専門学科における講義、実技練習の時間は決まっているが、＋αで学ぶ時間がもう少し欲しかった。 ● 職場実習において、入浴介助の見学だけではなく、実技の体験ができればありがたい。 ● 実技は就職前に経験できて役に立ったが、受講生同士で行う場合は介助しやすいように相手に合わせてしまうことがあり、実際の場ではもっと大変で、要介護者は体の踏ん張りが効かないことがほとんどであり、職業訓練の実技よりも大変な動作が必要であるなど、そこも訓練で体験できれば尚良かった。